

ミズユキノシタ	<i>Ludwigia ovalis</i> Miq.	準絶滅危惧
		アカバナ科
選定理由	分布域の一部で生育条件が悪化しているため。	写真(大塚英樹)
形態の特徴	茎は地表を這いまわる。葉は互生し、楕円形～円形、明瞭な葉柄があり、長さ1.5-3cm、幅1-2cm。花期は7-10月。花は葉腋に単生し、萼片は4個、花弁はない。蒴果は小さく長さ5mm未満。	
生態的特徴	湖沼、溜池、河川、水路などの水辺に生育する多年草。	
分布状況	本州・四国・九州・琉球に分布し、岐阜県では県南中西部の低地に分布する。	
減少要因	開発による湿地の消失、水辺環境の改修工事、増水による河道の変化。	
保全対策	開発行為からの湿地の保全。	
特記事項		
参考文献	北川政夫. 1982. ミソハギ科. 「日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類」(佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・巨利俊次・富成忠夫編)pp260-261. 平凡社, 東京. 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑. 文一総合出版, 東	

文責: 清水英彦